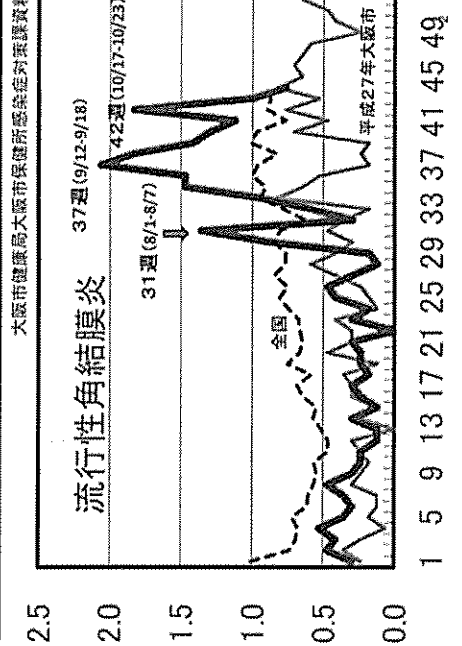


昨年から今年にかけての
大阪市における流行性角結膜炎に関して

一般社団法人 大阪府眼科医会
医療法人 森下眼科 森下清文

昨年のEKCの流行実態(3度のピークあり)



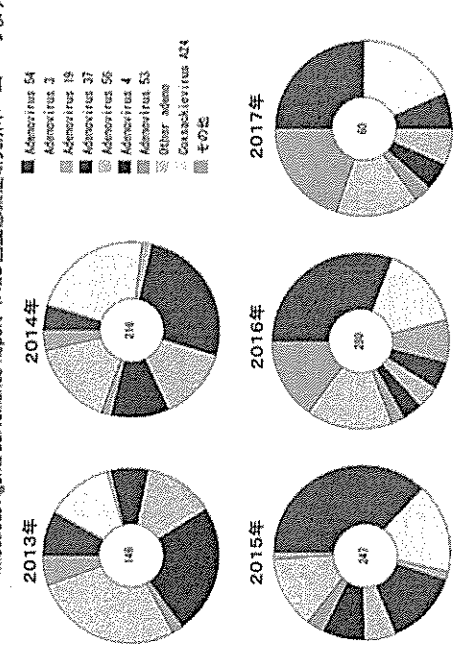
H28年提出検体 21件

アデノウイルス	54型	14件
アデノウイルス	3型	5件
アデノウイルス	19型	1件
アデノウイルス	9型	1件

H29年提出検体 6件

アデノウイルス	54型	2件
アデノウイルス	3型	1件
アデノウイルス	37型	2件
アデノウイルス	19型	1件

流行性角結膜炎患者から検出されたウイルスの型、2013.1～2017.6



大阪における流行性角結膜炎の特徴

54型の子供

眼瞼腫脹、充血、眼脂、流涙が主で、リンパ節腫脹や偽膜形成は認めず、10日前後で軽快した。14例中1例に角膜上皮下浸潤を認めた。

**54型の大人
(家族内感染)**

23例中3例に角膜上皮下浸潤を認め、2例に偽膜形成を認めた。

3型6例には、著明な特徴は認めなかった。

37型2例は、眼瞼腫脹、広範な角膜上皮剥離、偽膜形成と症状が非常に強かった。

感染源が疑われたA保育園に対する保健福祉センターの対応

1回目の通報(7月19日) 2例目の発症確認時)

7月 電話にての問い合わせ、指導

感染拡大のため 2回目の通報(9月12日)

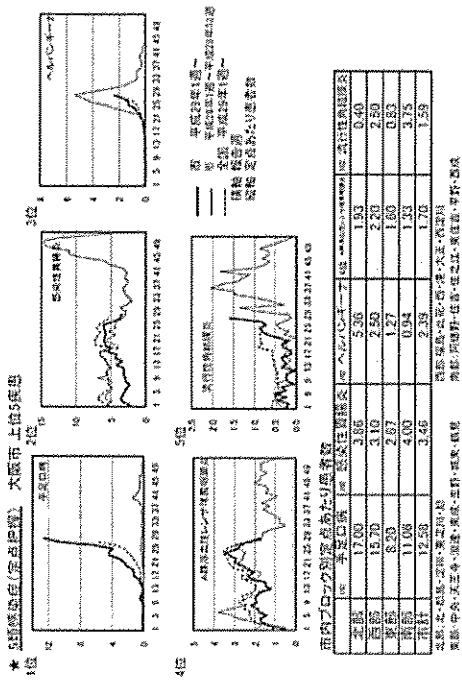
9月16日 医務主幹、健康課職員A保育所訪問聞き取り調査、指導を行う
園内での感染予防、家庭での2次感染防止に関しても指導

同時に、患者数の把握など徹底した調査施行

**H29.4.15 同保育園の2歳園児がEK(C3型)に感染
(昨年1歳時に54型感染)**

すぐに保健センターに連絡 センターの早い対応と
昨年の経験から同保育園での感染拡大なし

H29年 第28週:7月10日-7月16日



まとめ

昨年から今年にかけてEKの流行が大阪市で確認されています。
手洗いの徹底やタオルを別にするなど日常生活の注意を徹底させることで、感染拡大を防ぐことができます。
昨年流行した地区も、こういった指導を保健センターが徹底的に行ってくれたため今年には感染拡大を阻止することができています。

患者が集団感染の可能性のある場合は、地区の保健センターや医師会への連絡が大切です。
また、どの型が流行しているのか把握するため、定点の先生に検体提出の呼び掛けが必要です。